

広報

あかいけ

5

皆川ヨ子さん
祝
長寿日本一!

皆川ヨ子さん 112歳、日本一の輝き



鶴寿万歳



「ありがたいこと」

「皆川ヨ子さんが、日本一の長寿に！」突然の知らせに町中が沸きました。

4月5日、これまで国内最高齢だった飯塚市の小山ウラさんが114歳で亡くなり、112歳の皆川ヨ子さんに長寿日本一のバトンが引き継がれたのです。

みなさんが「突然で驚いた」と口をそろえる日本一の朗報。それもそのはず、昨年の敬老会の時期（10月）に「ヨ子さんは現在、県内2位で全国では7番目の「長寿」という情報しか知らないままで、その後の順位を把握していませんでした。以来わずか半年で全国一になったのですから、みなさんが驚かれるのも無理ありません。

日本一の長寿になった翌日、入所している上野の特別養護老人ホーム「慶寿園」で、ヨ子さんはいつもどおり約30人の入所者といっしょに「音楽療法」に参加しました。この、音に合わせて体を動かす「音楽療法」は、リハビリの



桜前線に乗ってやってきた
 うれしい知らせ*
 2005年4月5日
 112歳の皆川ヨ子さんが
 日本の最高齢者になりました*
 これを記念して「日本一の長寿」
 皆川ヨ子さんにスポットをあてます*

皆川ヨ子さん

【みながわ・よね】明治26年1月4日生まれの112歳。平成2年から赤池町の最高齢者（当時98歳）として、毎年町長の表敬訪問を受け、敬老会でも脚光を浴びる。町の長寿の象徴としてのイメージが定着し「ヨ子さん」と呼ばれ親しまれる。平成17年4月5日、日本最高齢者となる。常福（現在「慶寿園」）。

一環で行われるもので、ヨ子さんはこれまで積極的に参加してきました。この日も、楽器の音がするプレートを棒でたたき、リズムをとりながら室内に流れる曲に合わせて、にこやかに唱歌を口ずさみました。

「ヨ子さんね、112歳でね、日本一になったんよ。みんなおめでとぅって言いよるよ」と女性スタッフが耳元で声を掛けると、ヨ子さんは「そげんなるかね。ありがたいこと」と手を合わせながらはつきりした口調で答えました。

皆川ヨ子さんは、1893年、明治26年1月4日に4人姉妹の長女として赤池町上野（当時上野村）に生まれました。結婚後間もなくご主人が他界されましたが、農作物を炭鉱のある赤池地区へ行商するなど農業をしながら5人の子どもを育て、孫7人、ひ孫12人、玄孫2人に恵まれました。

3年前に上野の「慶寿園」に入所した皆川ヨ子さんは、骨折を避けるため車輪

子での生活をしていますが、耳が遠いほかは今でも新聞を読んだり、時には冗談を言ったりするなど、健康状態も良好。東京に住む81歳の娘さんからの手紙を渡されると、しっかりとした口調で読み上げていました。

106歳まで自宅で身の回りのことや庭仕事をしていたというヨ子さん。テレビでは時代劇と相撲、お酒は日本酒がお好きだったそうです。三味線をたしなんでいたせいか、今でも良いリズム感を持っておられるとか。おしゃれ心もあり、洋服の色は薄いピンクやブルーなどやさしい色を好みます。

「とにかくいつも体を動かして働いていました。くよくよしない、明るい性格です。自分に厳しく人には優しく、おはあちゃんが人の悪口を言っているのを聞いたことがあります」と孫の平山美智子さん（直方市）は、尊敬するヨ子さんについて笑顔で語ります。

今回の長寿日本一の朗報を県外などにいるお孫さんなど、親族がそれぞれで喜んでおられるそうです。



「ヨ子さん日本一になったよ」

「ホー、そげんなるかね」

「ありがたいこと…」

* ご長寿を祝うかのように咲く推定樹齢600年の虎尾桜（エドヒガン：町指定文化財）